

令和6年度 中城御殿跡地整備検討委員会（第3回）議事要旨

日時：2025年3月6日（木）10:00～12:00

場所：沖縄県庁 11階 第1・第2会議室

1. 上之御殿エリアの整備について

- ▶ 土のう箇所石積みは始まっているようだが、施工状況写真をみると往時の積み方と異なる。上之御殿西側擁壁のように、すでに積んでいるところも可能な限り修正してほしい。将来、国の名勝指定を受けるとした場合、石積みの修正を求められる可能性がある。今のうちにしっかりと対応してほしい。（委員）
 - ▶ 東側石積みの工事が始まる前に委員会に確認しながら整備を進めたい。（事務局）
- ▶ 石積みを復元と新設部分で分けるのは理解するが、新設部分が正方形の石を使うためマイルのように機械的に見える。石積みらしく長方形にした方がよい。（委員）
 - ▶ 前回の会議で往時と現代を区別して施工することを確認して進めている。あまりにも現代的だったということかもしれないが、方針通りでしかたないのではと思う。（委員）
 - ▶ 四角い石積みは古い時代14～15世紀の特徴である。往時は正方形だけでなく長方形も混ざっている。そこで区別するために正方形とすることで明らかに現代のものともわかる。あえて工夫しなくてもよいと考える。（委員）

2. 脇門石牆の整備について

- ▶ 戦後積み直した部分を解体して積み直すという理解でよいか。この部分は現代の相方積みであり明らかに往時と異なるため、戦後のものをなぞるのではなく、改めて本来の形に近づける整備が望ましいと思う。（委員）
 - ▶ 解体前に戻す方向で設計・工事を進めている。東側石積みの工事が始まる前に委員会に確認しながら整備を進めたい。（事務局）
 - ▶ もう一つの視点として、中城御殿の変遷も歴史である。戦争で破壊され積み直した変遷をどう評価するかを議論しなければならないのではないか。（委員）
 - ▶ 意見を踏まえて文化庁がどう考えるか。戦後早い段階で復元した。また、その下には遺構もある。その状況をどう考えるか相談したほうがよい。（委員）
- ▶ 新しく発見された遺構の取り扱いはどうなるのか。埋め戻しをして見えなくなるのか、部分的に見せるのか。屋内で、模型などで展示するのか。（委員）
 - ▶ 遺構に影響を与えず地下で保存できることは確認しており、記録を報告書として整理したうえで埋め戻す予定で進めている。（事務局）

3. 展示計画について

- ▶ 企画展示エリアは、固定ケースを企画展示室 3 の右側壁にしか配置できない。どのようなスケジュールで展示することを考えているのか、企画展示エリアで使えるケースが少ないことを懸念している。(委員)
 - ▶ 展示室全体でいうと、今的那覇市歴史博物館に比べて固定ケースは増えている。那覇市歴史博物館で展示している国宝資料は、漆器、衣装類が主であり、公開日数を鑑みると、今の状態でも 1 年まわすのにギリギリである。企画展示の際には可動ケースを配置して対応する考えとしている。(事務局)

- ▶ プロローグから入った正面に屏風のレプリカを配置するということだが、展示における悪い状況は、入口に人が滞留して展示室内はスカスカという状況である。いかに早く人を中に導くかを考えるべき。(委員)
 - ▶ プロローグ部分に人がたまらないよう、映像とともに動けるような仕掛けを考えている。屏風も映像を想定しており、30 秒～1 分程度として人を流すことを検討している。(事務局)

- ▶ 最初に首里那覇鳥瞰図を展示する計画だが、例に上がっている鳥瞰図は那覇がメインで描かれている。そこで、呉著仁が書いたものであれば、首里が大きく描かれている。鎌倉芳太郎の写真しか残っていないが、鳥瞰図のなかでは最大で最も優れている。県立芸大で高精細処理しているので、これをベースに彩色再現ができるのではないかと検討してほしい。(委員)
 - ▶ 呉著仁のものを活用できるか検討する。(事務局)

- ▶ 企画展示室 2 について、分けて使うこともあるのか。細かく区切る想定がないのであれば、特定防火設備を意匠的な側面から減らした方がよいと思う。どうしても必要であれば、特定防火設備について意匠的に配慮したつくりにした方がよい。(委員)
 - ▶ 企画展示室 2 のみが天井高を上げられる場所である。その他は天井高が 2.6m と低い為、企画展示室 2 だけを使って高さをいかした展示ができるのではないかと考えている。(事務局)

- ▶ 国宝は、戦火をくぐって残ったもので、不注意により損なうことは許されない。その意味で、収蔵・展示施設の防災や空調管理はしっかりと行わないといけない。当初予定していた首里城正殿の完成に合わせるという制約は考えない方がよい。首里城正殿完成に合わせる機能は、ガイダンス部分で十分である。国宝を損なうことのないよう時間を取って検討してほしい。(委員)

- ▶ 展示計画について、車イスの通れる通路の確保はされているが、展示台の高さや手すり等、いろいろな障害のタイプがあるので、その方々が利用できるような配慮をしてほしい。(委員)

- 車イスだけではなく、視覚障害やその他の障害にあわせ、展示台やパネルの高さ、手すり、場合によっては音声ガイダンスでの補足等も検討している。(事務局)

4. 外構整備について

- 正門周辺の外構計画について、西側エリアへのアプローチだけでなく東側エリアの完成までを踏まえて考えてほしい。(委員)
- 龍潭通りから正門を見たときに、本来は、楕円形の花壇がヒンプンとしてあって、その奥の木造建物が印象的な見え方となっていたと思われる。西側エントランス前の広場は、唯一まとまった溜まり空間で、特にここから中御庭への見え方が重要で、撮影や眺めるポイントになる。また、ガイドの解説にもすごくよいスペースとなる。そのため、階段を斜めにして段数を減らすなどでスペースを確保する工夫をすることで引きがとれないか。(委員)
 - 観光客も多いので溜り空間は大事となる。(委員)
 - 花壇に植えられている樹種はなにか。復元のコンセプトに関わる象徴的なものである。花壇を設けないことも考えられる。何のために必要か考える必要がある。(委員)
 - 階段をスロープ状にして段数を減らすことについて、そういう例はグスクにもよく見られるため違和感はないと思う。溜まりを確保することと花壇がきれいに見えること、そして階段をスロープ状にすることについて引き続き検討してほしい。(委員)
- 上之御殿エリア側に井戸の復元予定があるが、井戸と残っている遺構や石積みがセットで見える景観が重要である。そこにスロープ隣接してしまうと往時の景観にそぐわないのではないか。場合によっては、昇降リフトを設置することは考えられないか検討してほしい。また、どうしてもスロープであれば、井戸と離す検討をしてほしい。(委員)
 - 上之御殿へのスロープについて、この場所は復元する井戸や遺構の階段、石牆等、地上に見える状態のよい遺構があり、中城御殿の文化財の本質的価値の高い部分である。そこに現代的な構造物つくことは望ましくないため、別の手段で上之御殿へ上がる方法を考えていただきたい。(協力委員)

5. 世持橋高欄設計について

- ▶ 龍潭整備バリアフリー園路について、車イスが通れる幅のデッキが本当に必要だろうか。往時の景観を壊してしまう恐れがある。名勝指定を念頭においた場合、これが支障になるのではないかと。松崎馬場側はバリアフリーの動線があるためここを園路としないでもよい。
(委員)
- ▶ やぐらのようなデッキが本当に必要なのか。木製でも鉄製でも大きなものが連続してみえる。樹木で修景するといっても限界はある。どのように見えるか予想のパースを作成して確認する必要がある。対岸側からの景観が大事であるため、ここに園路整備の必要があるか再考してほしい。(委員)
- ▶ 現時点では県指定の史跡であるが、もともと名勝的な価値を守っていくために指定した経緯がある。首里城や中城御殿等の周辺との景観的な関係性のなかで価値が高く重要な場所であり、往時の景観を改変するような整備は難しい。現代的な構造物は課題がある。整備手法の考え方も含めて慎重に検討する必要がある。(協力委員)
- ▶ バリアフリー園路は、地域まちづくり協議会からの要望があり検討している。今後、名勝指定を目指すということも見据えながら検討していくということで仕切り直す。(事務局)